

白内障手術と同時にできる低侵襲緑内障手術

「水晶体再建術併用 眼内ドレーン手術」

緑内障の治療

緑内障は、眼圧を下げることであればその進行を防止したり、遅らせたりすることができる可能性がある病気です。ただし、ひとたび障害されてしまった視神経は、回復することはありません。

早期に緑内障を発見できれば、また視神経の障害が軽いうちに適切な治療を受けることができれば失明に至る危険性を減らすことが期待できます。

緑内障治療の目的は進行を止める、また遅らせることになります。今の視神経、視野を守るための治療を早期から実施することは重要です。また緑内障のタイプが異なるため、それぞれの人に適した治療方針を決定していくことがとても重要になります。



視野障害進行のイメージ

低侵襲緑内障手術について

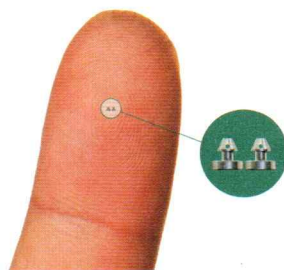
近年国内でも MIGS といわれる低侵襲緑内障手術が登場し、早期のうちから治療を行うことが可能となりました。患者様の眼に負担の少ない緑内障手術になりますので、早期に発見した際は積極的に治療して現在の視神経、視野を守ることが期待できます。

眼内ドレーンについて

水晶体再建術併用眼内ドレーン手術は低侵襲緑内障手術の中でも極低侵襲な手術になります。この手術で使用する眼内ドレーン(ステント)は長さ0.36mmの医療用チタン製で、体内に留置する非常に小さな医療機器です。



眼内ドレーン(ステント)本体

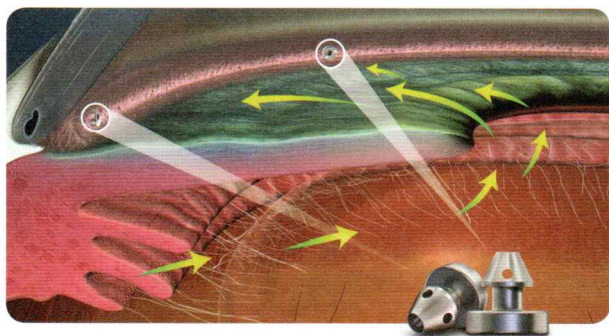


大きさのイメージ

手術について

白内障手術と同時に行います。白内障手術では小さな切り口を作りますが、その同じ切り口からステントを眼の中の組織に挿入することで眼圧を調整する房水の排出を改善し、眼圧を下げるのが期待できます。痛みを感じることはありません。手術中に頭の位置を変えたりすることがありますので医師の指示に従ってください。

- ◆ 白内障手術と同時に行います
- ◆ 手術時の眼の切り口が小さいので術後の回復が早いです
- ◆ 眼圧を下げる効果が期待できます
- ◆ 緑内障治療用の目薬の数を減らせる可能性があります



房水の流れのイメージ



術後写真

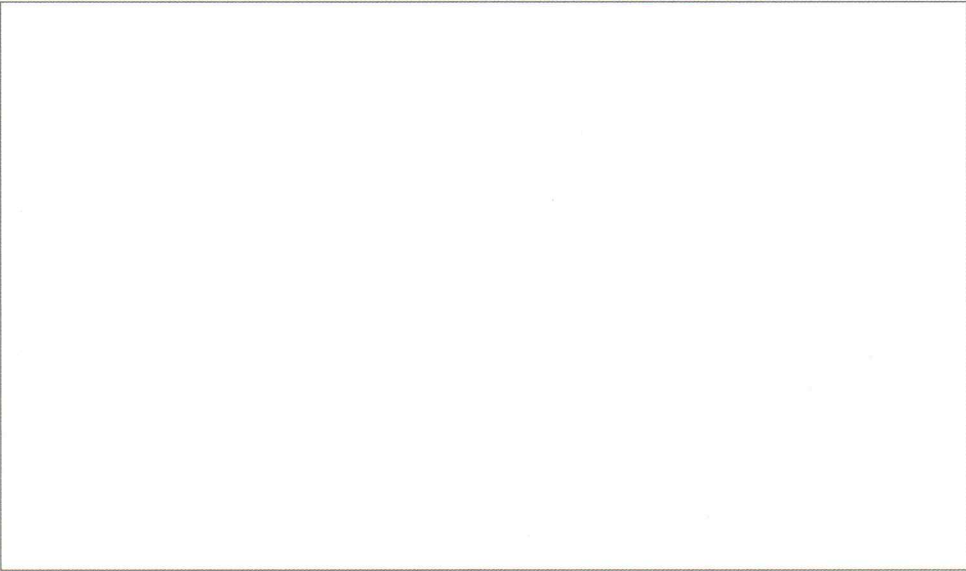
その他注意すべきこと

手術後に下記のカードをお渡しします。他の診療科でMRIという人体に電磁波をあてて断層撮影をする場合には、このカードを主治医にお渡しください。記載された条件で安全にMRI検査が受けられます。

MRI 検査(磁気共鳴画像検査)に関する情報		
本品は、条件付き MRI 対応です。本品が挿入されている患者は下記の条件において安全に MRI 検査が受けられます。		
	3テスラMRI	7テスラMRI
静磁場強度	3テスラ以下	7テスラのみ
最大空間傾斜磁場	4,000 ガウス/cm(40テスラ/m)	10,000 ガウス/cm(100テスラ/m)
最大全身平均比吸収率(SAR)	4W/kg 第一次水準管理操作モードの場合	

上記の条件下で、15分連続走行したその後も、本品は臨床的に有意な温度上昇を生じないと考えられます。非臨床試験では、本品の生じた画像アーチファクトは、3テスラ MRI で15mm未満、7テスラMRIで約23mmです。

監修 稲谷 大 先生(福井大学)



©2021 Glaukos Corporation. All trademarks are the property of their respective owners. iStent inject W and Glaukos are registered trademarks of Glaukos Corporation